

令和6年度 喜連中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標をもち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

**令和6年度 喜連中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	157	50	44	5.7	14.1
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	183	59.5	40.9	40.1	41.8	39.8	5.8	5.8	17.6	5.8	9.4
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】		聞くこと 【リスニング】		書くこと 【ライティング】		話すこと 【スピーキング】	
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	183	80.4	83.7	115.0	67.8				
	大阪市	—	105.7	104.6	149.6	102.1				

令和6年度 喜連中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○大阪市英語力調査(GTEC)結果

本校のCEFR A1レベル相当以上の中学3年生の割合は23. 45%で、大阪市の平均54. 3%を34. 05ポイント下回っている。

各観点別のトータルスコアでは

<読むこと【リーディング】>

全体の平均スコアでは市平均105. 7に対し本校は80. 4ポイントとなり、25. 3ポイント下回っている。
CEFR-JはA1. 2に分布。

<聞くこと【リスニング】>

全体の平均スコアでは市平均104. 6に対し本校は83. 7ポイントとなり、20. 9ポイント下回っている。
CEFR-JはA1. 1に分布。

<書くこと【ライティング】>

全体の平均スコアでは市平均149. 6に対し本校は115. 0ポイントとなり、34. 6ポイント下回っている。
CEFR-JはA1. 2に分布。

<話すこと【スピーキング】>

全体の平均スコアでは市平均102. 1に対し本校は67. 8ポイントとなり、34. 3ポイント下回っている。
CEFR-JはA1. 1に分布。

【今後に向けて】

・全般的な英語力に課題があり、特に「書く」の力に課題がある。これに関しては短文作成などの文章を書く練習をワークシートや副教材を中心に繰り返し反復できるよう努力している。また加えて英語の読解力をたかめるために、語彙力や文法力も小テストをするなどして、基礎的な力を優先して養い、繰り返し反復できるようにしている。そのことで生徒たちが表現する楽しさを感じられるようにしている。また聞く力にもそそういった基礎トレーニングや反復して何度も繰り返し学習することが役立っている。まだ課題は多くあるが、地道に続けていきたい。

・リーディングについては、パートCに課題が見られた。

・リスニングでは、パートBに問題が見られた。

・ライティングではやはり、本校の一番の課題であった。分の構成をもとに、自分の思ったことを文章にすることが今でも課題であるために、今後も継続して、繰り返し問題を解くなどし、語彙力をつけていき、書く力をつけていきたい。

・スピーキングは授業でも自分の意見を言うことを目標に練習していたために、予想以上の結果が得ることができた。

・スピーキングは授業でディスカッションを行い自分の意見を交換する練習をしていた。またGTECの前にきちんとテストに備えて準備をしていた。どのような問題が傾向として出されるかを考え、それに向けて準備をした。

・リーディング、ライティングはまだまだ繰り返しが必要であった。また英語の学習においてモチベーションを高められるように、生徒が自分の力の伸びを目で見てわかるよう工夫する必要がある。

・リスニングは継続して、繰り返し問題をしていく。それが課題なので、繰り返し行っていく。

英語力向上のためには、まず生徒の学習意欲を高めることが重要です。英語を楽しめる活動や進捗を体感できるような授業及び仕組みを取り入れることで、学びへの前向きな姿勢を育てられる。リスニング力向上のためには、日常的に英語を聞く環境を整え、シャドーイングやディクテーションといった練習方法を活用することが効果的である。さらに、読解力については語彙力や文法力を基礎から強化し、スキヤニングやスキミングのスキルを身につける指導が求められる。加えて、書く力を伸ばすためには、短文作文指導を繰り返し行い、生徒が表現する楽しさを感じ、自信をもって表現できる喜びを感じさせることができるような工夫を授業に取り入れていく必要がある。これらを総合することで、4技能が相乗して高められることを目標に授業に工夫や改善を取り入れていきたい。